

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可  
平成二十年四月一日発行(毎月一回一日発行)  
第十四卷第十二号(通巻第一六八号)

鈴



ぐるっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第168号

4. 2008

晋山式(本圀寺)

しんざん

品川 鈴子

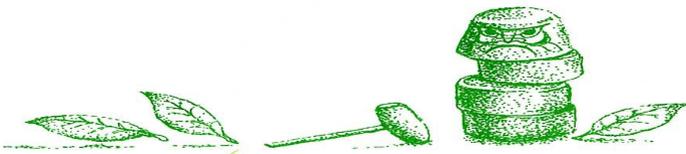
吉田宏遠氏

晋山の金縁めがね花明り

花冷えの床膝行し金欄座主

晋山の散華五彩に落花添ふ

鳥の恋首を千ぐり回したる



飛花落花白髪にとどめ少女めく

稿怠けさせる書齋の花明り

だしぬけの春霰訃に言葉失せ

丸亀

城下浜撒く潮よりも濃き霞

城棲みの鴉が銜へ端はなの飛花

将の武器飾られ肋あばら厚からず



# 玉

# 鈴

# 吟

兵庫 馬越 幸子

戎舞蝶葉紋の幕張りて  
偽募金かも宵戎混み合へる  
初戎七福神の飴買ひて  
福の笹見目よき娘より授からん  
吉兆の売れて三三四拍子

大阪 大井 邦子

大念珠くぐる鬼門に寒桜  
睡魔には勝てず幼の晦日蕎麦  
太つちよも瘦もどやどや護符を競る  
修正会ふんどし園児先達に  
寒日和子抱観音どかつと座し

東京 大川富美子

断ちがたき思ひのありや返り花  
裸木を過ぎゆく雲の無頼かな  
平成も二十の春となりしかな  
裸木となりてあまねし日の光  
石の上に姿ただして落椿

香川 大空純子

飛行機に折り古曆放ちけり  
床に入り祈りと共に除夜の鐘  
姪つ子もぐいっと空けしとしの酒  
差し出しの名前忘れし年賀状  
目標の欄は空白初日記

兵庫 岡 有志

涛に拳打ちこんできて初仕事  
蟹雑炊頬かがやきて聖家族  
まひの手で賀状をさする特養棟  
元日を喪の日ぶつかる医師われ  
庭よぎる松風の音初点前

埼玉 岡田章子

長命水一氣に飲めり福詣  
冬ぬくしこんこん様の目が下がる  
咳一つこぼして拝む風邪よけ尊  
枯るる中鳥の声澄む百花園  
七福神巡り一万歩となりぬ

愛媛 岡本峯代

丸いのがいいと手を出すお年玉  
ひとり生く標しるべに吊るす初暦  
喪ごころは恋ごころなる去年今年  
積雪に伏せる棕櫚竹抱き起こす

大阪 岡本 幸枝

顔見世の招看板道隔て  
松手入攻め入る足裏数へて十  
消防組唧ぼんぶ筒磨いて年用意  
比叡水の奔る鬼門寺春近し  
初日拝む少し猫背の夫の背

大阪 奥田 妙子

鶴島の五葉の松も年用意  
吟行納めに暖房の喫茶店  
向い風ペダル漕ぐ身に凍む家路  
いつの間に干支六度目のお正月  
初笑い老いて夫婦の展覧会

兵庫 勝野 薫

茶室閉じ関守石に凍てし蝶  
冬日差す誓子自筆の碑銘撫づ  
空調なき国宝館は冷え蔵す  
柚餅子吊る深き軒端の西風に  
友の名を探す底冷え震災碑

兵庫 金田美恵子

ひた歩く遍路追ひ越す路線バス  
子遍路の頭陀袋にはアニメの絵  
遍路撫づ仏足石を吾も撫づ  
川うその棲むてふ川なり水温む  
竹の秋防風林となりぬたり

徳島 河井富美子

家中の時計正して年新た  
はにかみて福笹を売るにはか巫女  
行き過ぎて香に気づきたり枇杷の花  
白鹿の宿る大社の初明かり  
鹿苑の病みある鹿の息白し

兵庫 川合まさお

梅ふふむ神戸事件の錆びし砲  
冬霞ハートハートの砂絵残る浜  
トラクター止めて数へる冬田道  
十二月豆腐屋の走る飲屋街  
揚幕の白き提灯年明けける

大阪 河村 泰子

ピラミッドの裡着ぶくれて屈みづめ  
初光り奥神殿のフアラオの眼  
鼻削がれしスフィinksに初茜  
切りかけのまゝオベリスク春眼中  
臍ベリダンスの舞しつっつナイルの船遊び

# 薬草歳時記

(一六七) ニラ(萑) カミミラ、コミミラ、フタモジ

市橋章子

萑の花女人禁ぜし境に入る 山口 誓子

ニラはユリ科ネギ属の多年生草本。中国西部を原産地とし、旧大陸の温帯に広く分布、自生していますが、栽培も古くからされてきました。

『古事記』の一節に臭萑かみら、『本草和名』に古美良こみら、『和漢三才図会』には俗名として爾良にらの名がみられ、古名はカミラ、コミラ、ミラ、俗にニラとよばれていたようです。

宮中の女房詞に、ネギの古名が岐と一音であることからひともしふたもじひともしふたもじ一文字、ニラはニ文字とよばれ、歳時記にも記載されています。

全草に独特のにおいがあり、緑色の線形の葉は柔らかく扁平で長さ三〇センチになる。生育した葉は摘めばすぐに新しくのびてくるので、年に何度も利用できます。夏、伸びた花茎の先端に白い小花を半球状に密生してつけ、小さな黒色の種子ができます。

日本で栽培されているのはほとんどが緑色の大葉ニラですが、黄ニラ(日光にあてずに軟白栽培したもの)、花ニラ(若く柔らかい花茎と蕾)も食用にされています。

各種ビタミン、ミネラル、食物繊維を豊富に含有。

特有のにおいは硫化アリルで、自律神経を刺激し、消化液の分泌をうながし、内臓の動きを活発にする働きがあり、血行をよくし、風邪予防にも有効。又、ビタミンB<sub>1</sub>の吸収を高め、新陳代謝をよくし、代表的な発がん抑制物質でもあります。

近年注目されている栄養素セレンも含有しており、体内の過酸化物質を取り除き、活性酸素の発生を抑える働きがあり、硫化アリルとともに、生活習慣病、がん予防の味方と期待されます。

薬用名は、萑白きゅうはく(茎葉を乾燥したもの)、萑子きゅうし(種子)。滋養強壯、胃腸に、腰痛、下痢止め、強精などに使われています。冷え腹の下痢のときは、粥や味噌汁に入れて食べると、体が温まり下痢がとまります。

「萑」は春季、「萑の花」は夏季。

参考文献 「原色牧野和漢薬草大図鑑」三橋博監修 北隆館

「身近な薬効植物100」田中孝治著 実業の日本社

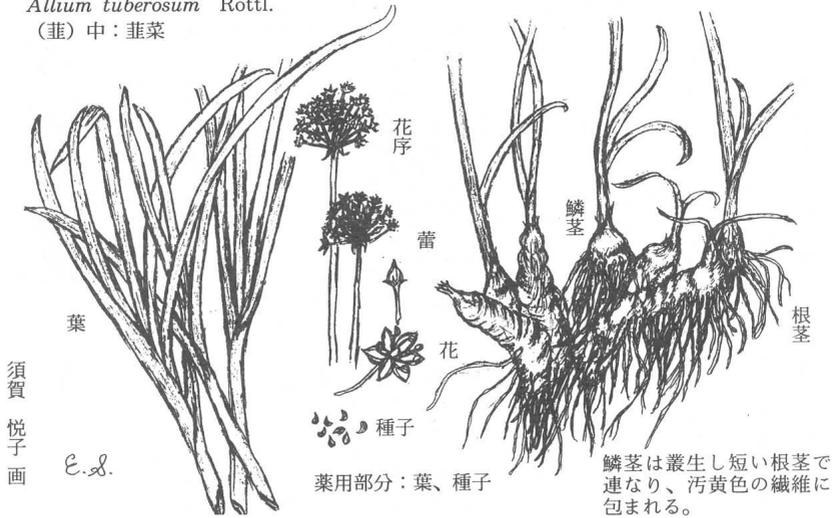
「食べ物」香り百科事典「日本香料協会編 朝倉書店

著者略歴神戸薬科大学卒

ニラ (ミラ、コミラ) [ネギ属] (ゆり科)

*Allium tuberosum* Rottl.

(韭) 中：韭菜



葉用部分：葉、種子

鱗茎は叢生し短い根茎で連なり、汚黄色の繊維に包まれる。

一叢の韭秀に出づる畑の隅	韭一本われの眼を扇ぐなり	むさし野に住みつく韭の苗育て	足許にゆふぐれながき韭の花	柿の木の幹の黒さや韭の雨	佐渡びとの牛をあそばせ韭を摘む	人去つて風残りけり韭の花	山の端に佗住む日々や韭の雨	貧農は弥陀にすがりて韭摘める	韭切るやともし火をとる窓の人
細野 恵久	飯島 晴子	沢木 欣一	大野 林火	原 石鼎	西本 一都	岸田 稚魚	山口 草堂	飯田 蛇笏	高濱 虚子

# 鈴の奏

品川鈴子選

投げる餌狙いて鳶の急降下 大阪 井上あき子

白南風の島で誓子の句碑に会う  
まだまだと老齡の薔薇咲き継いで

コルク栓ばらばら崩れ短き夜  
校庭の地ならし重機初作動 兵庫 長瀬 節子

枯芙蓉転院五回目母卒寿  
事始電話に出れば墓地のこと

初買は夫と揃ひの輪島箸  
森閑と厨の囲炉裏燃えさかる 兵庫 福島ゆき子

紅葉透く伽耶院かやいんの山夕映えて  
住職は話好きなり花八つ手

木偶使ふ声しわがれて初がらす  
木叩きの風本尊の煤払ふ 愛媛 高橋 英子

喧嘩風風向き急に変はりたる  
夫婦とも善哉が好き小正月

格闘するもの数多あり年の暮  
初詣おもちゃ持ち替え児の手水 兵庫 野澤 光代

寒稽古女兒も拳に気合い満つ  
傍らに樽酒置きし寒稽古

近所の目少し気にするちゃんちゃんこ  
頼る人失せし聖樹の煌めきて 愛媛 伊藤 康子

独り言言う癖つきし冬座敷  
喪籠りや蓬髪のまま年を越す

一日も早く閉じたし古日記  
霜の夜のしじまコーラン流れ来る 大阪 河村 武信

ピラミッド初日に照りて黄金色  
ラムセスの目線の先に初日の出

来世見る初日のなかのピラミッド  
初糶や手鉤操る海男 兵庫 水野 弘

糶はずむ漁港狭しと大鮪  
長靴の外湯廻りに小雪舞う

湯の宿に掲きし小餅は児がひねり  
荒れし手に真綿バリく絡み付く 愛媛 羽生きよみ

買置でまだ賄へる松の内

秀 鈴 記

コルク栓ばらばら崩れ短き夜

井上あき子

年代ものの洋酒やワインは、深挿しのコルク栓に護られて、永の夢路に横たわっているが、ある夏の夜に、選ばれて晴れの出番となった。華奢な主は栓に力と心を集中して、何とかすっぽり巧く抜きたいところ。だが擲やかな腕には、たっぷりと銘酒で膨れたコルク質は脆く、とつとときの瓶にコルクの欠片が零れこむ儚さ。

枯芙蓉転院五回目母卒寿

長瀬 節子

仮名を使わず漢字ばかりで、見るからに、ごつごつした居心地の句に仕立てた。枯芙蓉のような卒寿の母親は、入院先を五回も転医とは。落ち着いて養生もし難い世相。今春からの後期高齢者（75歳以上）健康保険法は、世界一の長寿国を誇れるものなのか？心配。

住職は話好きなり花八つ手

福島ゆき子

八つ手の花がひっそりと咲く冬の寺領に住む高僧は、稀

巻頭 三句 品川 鈴子 評  
四句〜十五句 師 岡 洋子 //

\*選句は全て 品川鈴子

に詣る人を相手として話しが尽きない。主客ともに心の通い合うひととき。

夫婦とも善哉が好き小正月

高橋 英子

夫婦善哉を思わせる雰囲気。何でも無い句の様であって、さらりとした表現がいうにいわれぬ滋味を醸している。又善哉が仲の良いお二人を想像させるだけでなく、小豆、小豆粥、小正月と「小正月」というゆかしい季語をうまく引き出す役目も果している。「小正月」には、正月の様に大仰でない晴れやかさがある。善哉と「小正月」で円満なご家庭の様子。おのずから湧く幸福感が伝わってくる。

近所の目少し気にするちゃんちゃんこ 野澤 光代

この冬は例年になく寒く、温暖に慣れた身にはこたえる。そこで「ちゃんちゃんこ」の出番。袖が無いので羽織るには誠に重宝。しかし急に老けた様な気分になるのも確か。いつも若々しい作者が、ゴミ出しに羽織って出たもののご近所の方に出合うのが恥ずかしく、大急ぎで家に入る様子

が想像され何だか可笑しい。肩の力の抜けた句のよさ。

独り言言う癖つきし冬座敷 伊藤 康子

同時発表の前後の句より、大切な方を亡くされた事が思われる。「冬座敷」にはどこことなく淋しさ、静けさがつきまとう。この間まで炬燵でお喋りしていた亡き人に、ふつと話しかける様に独り言を言っている自分に気の付く淋しさ。「冬座敷」が独り言が癖になっていく日常の空気を感じさせ、しみじみとした一句に。

霜の夜のしじまコーラン流れ来る 河村 武信

コーランはアラビア語で書かれたイスラムの聖典。礼拝の時に朗々と誦するその脚韻を踏んだ詩的韻律は快い響きを持っている。その響が霜夜の張り詰めた空気の静けさの中を流れて来る。旅人として聞いている作者同様に、我々にまでコーランの響が届く様に思われる。無理のない言葉の幹旋が海外詠を叙情豊かな作品に。下五の「流れ来る」に想像がふくらむ。

初糶や手鉤操る海男 水野 弘

初糶の魚は鮪でありたい。東北の漁港を旅の途中に見学

されたのであろう。海の男の鉢巻姿も凛々しく、立派な鮪を手鉤で器用に操って、くるりと裏返したり、引つ提げたりと、実に鮮やかに扱う。一句の調べに、御祝儀相場で湧く魚市場の目に見えない活気が、海の男の動作を生かした表現で、生き生きと漲って見えてくる。

荒れし手に真綿バリく絡み付く 羽生きよみ

「真綿」懐かしい言葉である。繭を引き伸ばして作った綿で白く光沢があり柔らかくて軽い。そのまま負い真綿に、又綿入れの羽織を作ったりしたものだ。その絡み付く様な繊維が冬の荒れた手にひっかかり、剥がす度にバリバリと音が立つ。「バリバリ」が肌の荒れを一層助長する。句意は明快であるが、かつてのつゝましい生活にまで思いが及ぶ。

亡き母と会ふ柚子風呂に目つむれば 平川 倫子

柚子をたつぷり入れた柚子風呂に身を沈めて、目をつむると、柚子の香りと共に懐かしい記憶が呼び覚まされる。記憶が記憶の連鎖を生み、いつしか母の記憶へとたどりつく。あたかも母に会う様に。いや会えるのである。「母に会ふ」「目をつむれば」のしっかりとした表現が母を懐かしむ心情をよりしみじみと伝え、作者の母への思いの深さがに(以下略)